



しまねの社会教育だより

島根県立県部社会教育研修センター
vol. 22
島根県立県部社会教育研修センター



photo 大田市 大田幼稚園PTA研修での「親学プログラム2」体験

特集 「親学プログラム」の さらなる活用・普及をめざして

2016.
3月号

- contents ■ 「親学プログラム」の効果と活用
■ 学びをカタチに!! 〔松江市公民館地域活動コーディネーター〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介 〔隠岐の島町・松江市〕
■ 社会教育施設紹介 〔しまね海洋館アクアス〕

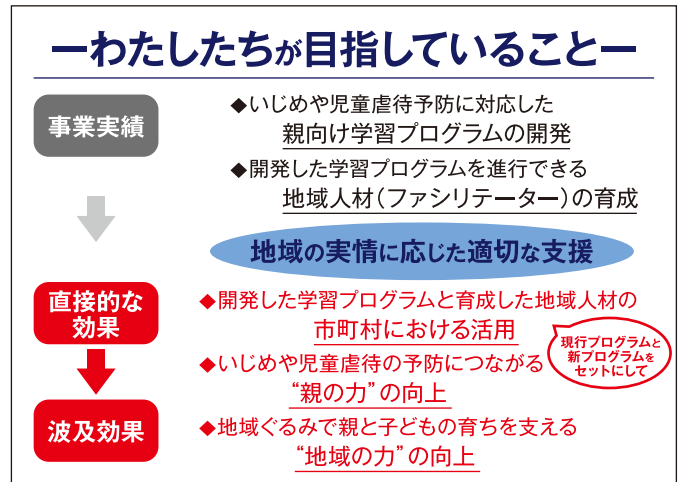
「親学プログラム」のさらなる活用・普及をめざして — 現行「親学プログラム」と新「親学プログラム2」をセットにして —

■ 「親学プログラム2」の開発

平成25年度から2年間、国の事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム(通称:公民館GP)」の委託を受け、「いじめや児童虐待予防に対応した親向け学習プログラム」として開発に取り組みました。今年度は、県の事業として引き続き開発をすすめ、昨年10月末に「親学プログラム2(実施版)」として完成させました。

この事業は、学習プログラムの開発と同時に、このプログラムを進行できる地域人材(親学ファシリテーター)を養成し、市町村において、現行の「親学プログラム」と新しい「親学プログラム2」をセットにして活用いただくことをめざしてすすめてきました。

この活用がすすむことで、それぞれの地域の「親の力」が高まり、ひいては、「地域の力」が向上することをめざして取り組んでいます。



■ 「親学プログラム」と「親学プログラム2」の関係



「親学プログラム」は、わが子との関係性の中で「家庭内における親の学び」を支援するものです。

「親学プログラム2」では、わが子だけでなく、“よその子・よその親・学校・地域等との関係性”も考えることができるようにしています。つまり、「家庭外、地域社会における親の学び」を支援することに重点をおいています。

そこで、これら2つのプログラムをセットにして活用することで、真の意味での家庭教育支援策になると考えています。

■ シリーズで実施することのすすめ

これまで、参加者の実態や必要性に応じて、1つのプログラムを選んで、単発で実施されることがほとんどでした。単発の実施でも、そのプログラムがねらう気づきがありますが、単発の効果しか期待できません。

そこで、2つのプログラムをセットにして、**系統的に、段階をおって、親個人の幸せにつながることを支援するために、シリーズで実施することを提案しています。**

年間1回でも2回でも、「今年『親学プログラム』をしたから、来年は『親学プログラム2』をしよう」とか、「今回のテーマでやったから、次はこれをしよう」とか、計画的に段階をおって系統的に実施していただくこともシリーズでの実施と考えています。

考える親集団・行動する親集団づくりのための5回シリーズ例

- ① 『親学プログラム2』 1-⑤「みんなで子育て」
→ 親同士がつながることの大切さに気づく
- ② 『親学プログラム』 1-③「子どもに示したい大人のふるまい」
→ わが子との関係性を見つめる
- ③ 『親学プログラム2』 2-④「〇〇地区の子どもは、
こんな子どもに育ててほしい」
→ 親の社会的役割について考える
- ④ 『親学プログラム2』 3-⑤「もし、いじめがおこったら…」
→ いじめがおきた時の対応を考える
- ⑤ 『親学プログラム』 7-③「わが子のPR ～短所も長所～」
→ わが子を再度見つめ直す

【シリーズでの実施例】

島根県教育委員会は、関係機関と連携し、新たに「親学プログラム2」を作成しました。その内容や2つの「親学プログラム」の活用について紹介します。

■「親学プログラム2」の内容

「親学プログラム2」は、従来の“楽しく”“互いに”“体験的に”学び合う参加型の学習スタイルを踏襲しながら、新しい手法も取り入れ、使いやすい内容としています。

次の3つの柱立てで、合計20プログラムを用意しています。実態やねらいに合わせて活用ください。

1 様々なつながりをつくるプログラム

親同士や、親と学校や保育所、学校・家庭・地域がつながり、それぞれが“認め合い・支え合う”関係づくりをねらっています。

子どもにかかわる地域の大人の役割を考える“地域学・大人学”としての活用も可能です!!

2 親の社会的役割について考えるプログラム

親が、他の親や地域・学校等とつながりを持ち、子どもたちの育ちを支える重要性に気づき、地域ぐるみで子育てに取り組もうとする意欲の向上をねらっています。

3 いじめ予防や児童虐待予防について考えるプログラム

いじめ予防や児童虐待予防について正しく共通理解した上で、“いじめや児童虐待の未然防止・深刻化を防ぐため、何ができるのか”“いじめや児童虐待が起きたとき、何ができるのか”について考えることをねらっています。



開発アドバイザー 肥後功一先生[島根大学教授]のメッセージ

「親学プログラム2」の開発にあたっては、島根大学の肥後先生に開発アドバイザーとして、指導・助言いただきました。

肥後先生のメッセージを紹介します。

～「親学プログラム2」は、親として成長したい人の自己を揺り動かす力を持っています。いじめや虐待といった深刻な問題をとりあげてはいますが、根底にあるのは、さまざまな人の在り方、つまり多様性や異文化への理解ということです。わが子もよその子も、自分も人も、等しく大切にしようとする態度や方法であり、こうした「人権」の根本に関わる意識を育むことは非常に重要です。子育ての時期に、一人の親として、このような意味での「自分のやりなおし」を多くの人を経験しておくことは、実は高齢化が進んでいく中、意見や価値観の異なるお互いが支え合って暮らしていく地域社会を作っていくための基本プログラムでもあるはず。このプログラムによって、立ち止まって成長する手応えをつかみ、他者との協働の中で再び学ぶ喜びを知った人は、子育ての中だけではなく、企業や組織の中でも、創造的に思考し行動する人になっていくのではないかと私は考えています。～

[本事業推進委員会「講義」から]



「親学プログラム」の効果と活用

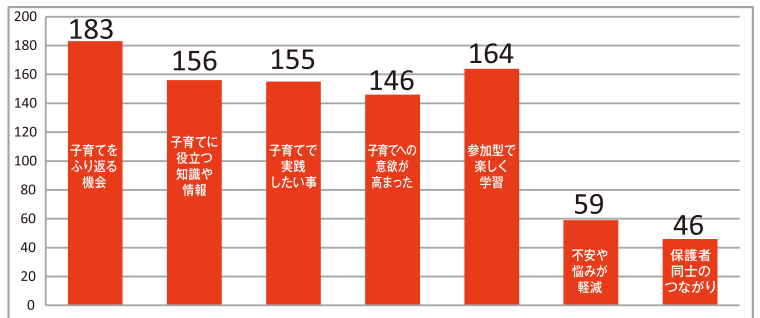
「親学プログラム」「親学プログラム2」の効果は？

参加者の感想(自由記述)を分析した結果、「親学プログラム」の教育的効果として、「子育てをふり返る機会になる」「子育てに役立つ知識・情報が得られる」「子育てで実践したいことが見つかる」「子育てへの意欲が高まる」ということがあげられます。また「参加型で楽しく学べること」が、この教育的効果を高めていると考えています。さらに、「子育ての不安や悩みが軽減した」「親同士のつながりのきっかけになった」という回答もみられました。(図1)

「親学プログラム2」の参加者アンケートの結果では、「保護者同士のつながりができた」「わが子以外の子どもたちとのかかわり方を考えることができた」「地域や保育所・幼稚園・学校等と協力して子育てすることの大切さがわかった」という声が多くあがっています。

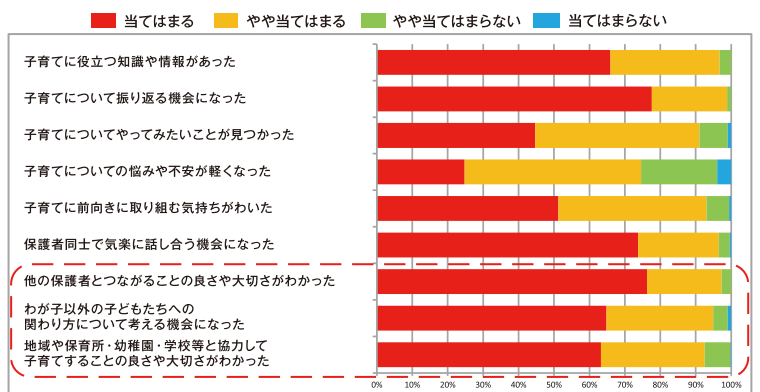
このことから、「親学プログラム2」は、親が他の親や地域・学校等とのつながりや、わが子以外の子どもたちとのかかわりの大切さに気づく効果があるといえます。(図2)

図1



「親学プログラム」参加者の感想【自由記述：337名】をテキストマイニングを用いて分析協力・資料提供 松江市教育委員会生涯学習課

図2



平成26・27年度「親学プログラム2」試行実施アンケート結果【523名】を集計

「親学ファシリテーター」の状況は？

2つの「親学プログラム」を進行する「親学ファシリテーター」は、県内全市町村にいます(図3・図4)。市町村の担当課に問い合せいただければ、「親学ファシリテーター」の派遣について相談・依頼することができます。市町村の担当課は、県立東部・西部社会教育研修センターのホームページをご覧ください。



図3 「親学ファシリテーター」の状況 H27年3月末現在



図4 「親学2対応親学ファシリテーター」の状況 H27年12月末現在

「親学プログラム」活用の様子



大田幼稚園PTA研修(大田市)

テーマ 「“オトナ”の役割を考える」

(「親学プログラム2」)

“わが子だけでなく、知っている子、知らない子とのかかわり方・しかり方を考え、比較することで、大人としての社会的役割に気づき、自分にできることを考えます。



～参加者の感想～

- ◇父母、幼稚園や学校の先生、地域の方々、習い事の先生や友達、いろんな人とかかわりの中で大切にされて育った子どもは、素直な子どもに育つと思います。
- ◇わが子もよその子もみんな大切な命。「ダメなことはダメ」と、自信をもってしかれる大人にならなくてははいけません。
- ◇自分の子ども以外の子どもに対して、大人としての役割があることを感じました。小心者なので「一声かける」ができないこともあると思いますが、勇気を出すためのきっかけになりました。

雑賀小学校PTA研修 5回シリーズの実施(松江市)

テーマ 第1回 「みんなで子育て」

(「親学プログラム2」)

第2回 「子どもに伝えるのって難しい」

(「親学プログラム」)

「わが子に示したい大人のふるまい」

(「親学プログラム」)

第3回 「雑賀の子どもは、こんな子どもに育てほしい」

(「親学プログラム2」)

第4回 「いじめがおきない環境づくりのために」

(「親学プログラム2」)

第5回 「わが子のPR—短所も長所—」

(「親学プログラム」)

「親学プログラム」「親学プログラム2」をセットにしてシリーズ化することで、日頃の子育てをふり返って、上手いかわないことなどの悩みを語り合い、工夫・改善して取り組もうとする意欲をより一層高め、“考える親集団”“行動する親集団”を育てていきます。

～参加者の感想～

- ◇ご近所の方や友達に助けってもらえることは、どんどん頼ってみようと思いました。それで、私も誰かの役に立てることがあれば、スバラシイと思います。
- ◇子どもが卒業したから自分も卒業ではなく、“地域の子どもと親”に積極的に関わりをもつことが、地域全体で子育てするためにも大切だと思いました。
- ◇見方を変えれば短所は長所。私が「もう!(怒)」と頭にきたことも、「いいよー」とほめていただきました。



「親学プログラム」のさらなる可能性

「親学プログラム2」の開発によって、わが子だけでなく、よその子・よその親・学校・地域等との関係性も考えることができるようになりました。市町村によっては、すでに、乳幼児健診や一日入学の際に関係部局と連携して「親学プログラム」を活用しているところや、親子活動に「親学プログラム」を取り入れ、より効果を高めているところもあります。

このように、活用の機会を工夫していくことで、「親学プログラム」を活用した家庭教育支援の可能性は広がっていくものと考えています。



学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かして、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方を紹介していきます。

松江市公民館地域活動コーディネーター

藤原敦子(松南)鹿島龍也(松東)池田知弘(中央)松尾強(松北)宇田川布美子(湖南)

松江市公民館地域活動コーディネーターは、松江市の公民館を5つのブロック(松南・松東・中央・松北・湖南)にわけた各ブロックに1名配置され、ブロック内だけではなく、市全体の学習活動等の調整・情報発信の管理、事業の企画・運営及び、公民館相互の連携に取り組んでいます。

■公民館職員の研修の“企画・実施”

今年度は、これまで行ってきた主任研修を見直し、職員の資質向上や情報交流に重点をおいて取り組まれました。その企画・実施にあたっては、社会教育研修センターの「市町村支援」機能を活用されています。



全3回で実施した『主任研修』は、公民館において要の存在である“主任”の研修を充実させたいという想いからスタートしました。いざ自分たちだけでやるとなると、どのように企画し、実施していけばいいのかわ大変迷いました。研修の目的は何か、研修を通して主任がどういう思いや考えをもち、今後どう行動してほしいのかを考えました。

そこで、社会教育研修センターに相談し、「公民館の主任としてどんな力が必要か」を改めて見直し、それに合わせた研修の内容を考えました。また、社会教育研修センターが、5回シリーズで開催された『公民館等職員研修』や、他市や他団体の開催する研修等にも参加しました。

そうすると、紙の上で考えていたことが、「少し変えた方がいいのではないか、もっと効果的なやり方があるのではないか」と思えるようになり、次から次へとアイデアが出るようになりました。

そして、相談や研修からもどるたびに、考えや想いをすりあわせ、確かめながら研修をつくり上げることができました。最初はなることかと思いましたが、参加者の感想を聴くと本当によかったと思っています。

参加者から、「自分と同じ想いの人がいって安心した」「明日からまた頑張れる気持ちになった」などの感想が寄せられました。

その“想い”と“笑顔”に企画したコーディネーターは「試行錯誤の研修ではあったが、開催した甲斐があった」と、ほっとすると同時に今後、さらなる充実した研修につなげるようにしたいと話しておられました。

■“研修”することがゴールではない。これが新たなスタート!!

「やっと第一歩が踏み出せました。単館ではなく、市全体としての課題を示せたので、共有した課題をどう解決していくかに視点をおいて、今後の研修を計画していかなければならないと感じています。」

お話を伺いながら、研修の企画・運営を通して、コーディネーターのみなさんが課題を共有し、主体的に研修に向かおうとする学びの姿を感じました。

そして最後には、「社会教育主事有資格職員」のフォローアップ研修を開催していきたい」と話してくださいました。



POINT

社会教育研修センターでは、社会教育行政施策の充実・推進、そして社会教育関係者の人材養成をめざし、市町村等が主催する社会教育に関する事業・研修等についての相談を受け、助言・情報提供を行っています。

社会教育の実践紹介

隠岐の島
町

有木小学校放課後子ども教室 「まにの広場」

～遊びから共に学び合う広場!!～ 放課後子ども教室コーディネーター 野坂 舞

「のびのびと遊べる放課後の居場所を作りたい」という思いから、有木小学校の協力のもと空き教室を利用し、「まにの広場」を開催しています。地域、保護者のボランティアの方々に支えられ、毎日開催となってからまだ2年目ですが、全校児童の7割が登録し、たくさん子どもたちが「ただいまー!」と遊びに来てくれるにぎやかな教室になりました。

ここでしかできない遊びをおもいきり楽しんでほしいため、あえて活動内容を決めず、自由に遊んでもらっています。中でも人気なのが泥あそびです。全身泥まみれになりながら、自分たちで色々な遊びを創り出し、夢中になっています。



ものがあふれた時代、何もなくても十分遊べることに気づかせてくれたのは子どもたちでした。子どもたちが異学年とのつながりの中で共に学び合い成長する姿から、大人も学ぶことはたくさんあります。

「子どもは遊ぶのが仕事。」学校と家庭を結ぶ中間で、子どもたちに今しか経験できない放課後を過ごしてもらえよう支えていきたいと思っています。

地域で学校、子どもたちを支えたいという熱い思いから、体制を整え、毎日開催を実現しました。地域の方が見守る中、子どもたちは、異学年とつながり、共に遊びを創り出します。毎日、様々な「学び」がある素晴らしい教室です。
(隠岐の島町教育委員会派遣社会教育主事)

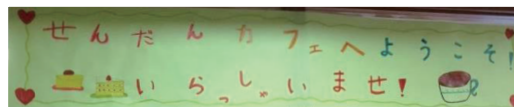
松江市

せんだんカフェ・パワーアップ大作戦

～子どもたちが大人を動かした～

せんだんの会 野田 恵子

「自分たちの地域は地域で支えよう!」そんな思いで『ボランティアせんだん(梅檀)』を起ち上げ、10年が経ちました。地域の憩いの場、会員の情報交換・共有の場として「せんだんカフェ」をオープンし、3年前から美保関小学校5年生の「ふるさと教育」でカフェ体験(喫茶・弁当作り・地元の食品販売)を受け入れてきました。今年は「せんだんカフェ・パワーアップ大作戦」と称して「ポスター」「店内の飾りつけ」「弁当の包み紙」「合唱」など、子ども目線のアイデアでお客様を笑顔にしてくれました。



みんなに喜んでほしい一心で活動する子どもたちの姿に大人たちも動き出しました。「販売用に」とクッキーやパンを作ってくださったお母さん方、「ポスターを見た」と来てくださった地域のみなさん、また、遠く出雲市から視察にこられた方々など…。

子どもたちと楽しく学び、「ふるさと教育」とは、こういうことなのかなと、パワーアップしたせんだんカフェに気づかせてもらいました。



「自分たちの地域は地域で支えよう!」というせんだんさんと「自分たちも力になろう!」という子どもたちが一つになったこの取組は、子どもたちの想いが地域の大人たちも動かしました。そこに互いの「学び合い」があったことが何よりステキですね!
(松江市教育委員会指導主事・派遣社会教育主事)





アクアスの教育事業を支援する“アクアサポーター”

“アクアサポーター”は、アクアス館内での解説活動や、タッチプール・バックヤードでのサポートなど、来館される方がより身近に生き物について「知る」「触れる」「楽しむ」「学ぶ」ことを応援するためのボランティア組織です。アクアスでは、“アクアサポーター”を主体としたイベントの実施などを通して、学習意欲の向上や学びを活かした活動をめざしています。

“好き”
を活かす

生き物に関するだけでなく、 “自分の経験”を活かした活動ができます!!

館内解説、バックヤード案内、体験スクールの講師・補助、絵本・紙芝居の読み聞かせ、工作教室、生き物の調査補助、観察会補助 など



【観察会補助】
子どもたちに生き物の触り方を教える補助をしています

“募集”

アクアサポーターになるには

水族館が大好き!生き物が好き!人と接するのが好き!アクアスの近くに住んでいる!何か始めてみたい!ボランティア活動が成績UPになる方・・・

15歳(高校生)以上なら、誰でもOKです。

アクアスを舞台に活動してみませんか?

詳しくは、アクアスにお問い合わせ下さい。



“伝える”

【館内解説】
水槽の魚についての説明をしています

来館者の声より(感想の一部)

「今日は、サポーターの方に館内の説明だけでなく、質問にも丁寧に答えていただき、本当にありがとうございました。おかげでとても楽しく過ごすことができました。」

“出会う”

【スクールの補助】
未就学児対象の「ゆったり親子の会・クリスマス」で、活動の補助をしています。

編集スタッフから

先日ファシリテートした公民館での親学講座の一風景を紹介します。硬い表情で開始時間ぎりぎりに集まった地域のみなさん。アイスブレイクの後カードに想いを書いてもらって、ちょっとカフェタイム。コーヒーをいただきながらおしゃべりします。『子どもに示したいオトナのふるまい』についてのおしゃべりが、いつの間にか、夫婦のあり方にまで話が盛り上がり、大きな笑い声が会場中に溢れました。もちろん、深いうなずきやため息、反省の声も…。時間もすすみ、ふりかえりの時間。あるお父さんの最後に残したカードが印象的でした。そのカードには【夢をもつ】と書かれていました。そして、オトナが夢をもって語ることの大切さを楽しみ語りおられました。今、社会全体として夢をもちにくい雰囲気があります。だからこそ、オトナが夢をもち、その夢を子どもに語ることも大切なことなのかもしれません。

みなさんの夢はなんですか?子どもと夢を語ってみませんか。

島根県立しまね海洋館アクアス -AQUAS-

■アクアサポーターお問い合わせ先

〒607-0004 浜田市久代町1117番地2

TEL 0855-38-3614(学習交流係)

■開館時間/9:00~17:00(夏休みは18:00まで)

休館日/火曜日(祝日の場合 翌平日休)

※春休み・GW・夏休み・冬休みは休まず開館

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/
E-mail: tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/
E-mail: seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

第23号は
7月末
発行予定